

門那シーリング印刷株式会社		業種	製造業		
		事業所所在地	大阪府大阪市		
被承継者		承継者			
	有限会社エスピー企画			門那シーリング印刷株式会社	
	事業承継時年齢	61歳		事業承継時年齢	67歳
	業種	製造業		業種	製造業
	事業所所在地	大阪府大阪市		事業所所在地	大阪府大阪市
	売上高	～10,000万円		売上高	～50,000万円
	資本金	3,000千円		資本金	10,000千円
	従業員数	8名		従業員数	22名
事業承継前の主たる事業内容		事業承継前の主たる事業内容			
オフセット印刷による印刷物の製造		シール印刷製造販売			
被承継者と承継者の関係		事業での取引があった			
事業承継の経緯					
事業承継の検討を開始した時期：2020年3月					
被承継者		承継者			
営業力の不足、後継者の不在	承継前の事業課題	オフセット印刷による商品の製造を全て外注先に依頼していた			
①廃業 ②後継者の不在、新型コロナの影響で先行きが不透明となり、顧客や従業員に迷惑を掛けられないという思いがあったから	事業課題解決のために、 ①他に検討した手法は？ ②なぜ事業承継を選択したか？	①特になし ②被承継者から相談を受け、廃業となると今まで依頼していた仕事ができなくなる、及び被承継者の強い思いがあったから			
事業での取引があり、信頼できる会社であった	相手先との交渉開始のきっかけ	被承継者からの相談による			
特になし	課題と克服 ①財務	取引銀行からの融資			
顧客、仕入先への引継ぎ	課題と克服 ②取引先との調整	顧客、仕入先との条件等の調整			
従業員の転籍	課題と克服 ③社内調整	被承継者の従業員の受入れ雇用調整			
事務所及び工場の統合移設	課題と克服 ④諸手続き	事務所及び工場の統合移設			
事業承継を行った時期：2020年4月					
事業承継の形態	事業承継 成立の決め手になったのは？				
事業譲渡	被承継者	承継者			
	後継者の不在、コロナ禍の影響で先行きが不透明であった。承継者へ相談したところ、快く引き受けて頂いた。	被承継者とは古くからの付き合いで信頼できる仕入先であった。また、オフセット印刷を内製化する良い機会であったこと。			

経営革新等に係る取組の標題	
新生産体制の構築	
経営革新等に係る取組の内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
<p>●承継者は、社内設備であるシーリング印刷機でシール、ステッカーなどを短納期・希望納期で製造していたが、近年、社内設備がないオフセット印刷指定での製造依頼が増加してきたため、外注先の持ち回りや納期面での対応に苦戦していた。一方、被承継者はオフセット印刷機及びオンデマンド印刷機を活用したチラシやパンフレットなどを短納期かつ安価で製造し、スクラッチ印刷等の特殊印刷のノウハウも有していることから多くの顧客に信頼されてきたが、営業力の不足や後継者の不在などという理由から廃業を考えていた。</p> <p>●仕入れ先でもある被承継者から相談を受けた承継者は、被承継者が持つ設備・ノウハウ・人材を引き継ぎ、双方のノウハウを融合して近隣の中小同業者が構築していない製造体制を整える計画を立てた。事業譲渡による承継を機に本補助金を活用して、3つの事業所に分散していた設備の統合と工場内の内装工事、電気工事等を行った。双方の設備の統合・移転費用がかかったが、ランニングコストが下がったこと、製版から印刷への効率が上がったことなど多くの成果があった。</p> <p>●今後は、さらなる業務の効率化を図ることで、今まで対応することができなかった顧客ニーズ(品質強化、短納期対応、合理化、新製品の提案)に対応して地域社会への貢献を目指す。</p>	
  	
地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
<ul style="list-style-type: none"> ●事業承継することで被承継者の従業員の雇用が継続できる。 ●地域の顧客や仕入先と継続的な取引が可能になる。 ●事業承継に伴う事業拡大により地域社会への一層の貢献が可能になる。 	<p>■ 設備費 ■ 人件費 ■ 廃業費</p>  <p>経費の主な使い道</p> <p>設備費：建築内装工事費、電気工事費 人件費 廃業費：工場移設費、事務所移設費</p>
認定経営革新等支援機関の名称：尼崎信用金庫	
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案
<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
制度の詳細の説明及び提出書類作成のサポートをいただきました。	
今後に向けて～次の目標	
2020年から2023年に向けて	事業承継後、竹島工場への移設が完了して業務の効率化が円滑に進めることができた際には、加工部門（スリッター機）への投資によって加工での外注費の約1/3程度を内製化することができる。さらに、トムソン加工機を導入することで、オフセット印刷部門の全ての工程をワンストップで完成品まで製造することができる。さらに、現状では受注することができなかった化粧箱などの新しい製品分野に参入することも可能になる。その結果、顧客ニーズにトータル・サポートできる体制の構築を目指す。
営業利益	10 %UP
これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
事業承継できたことで顧客、仕入先また、従業員に迷惑をかけることなく引き継ぐことができ安心できました。承継者の今後の発展と地域社会への貢献を願います。	突然の事業承継になり戸惑いもありましたが、承継することで今までできなかったサービスや製品を提供できることが強みになると判断し、承継することを決めました。コロナ禍の影響で厳しい環境下ではありますが、今後さらに、顧客に満足頂けるサービスや商品を提供して地域社会の発展に努めたいと思います。